どこにどのような危険があるか考えてみよう

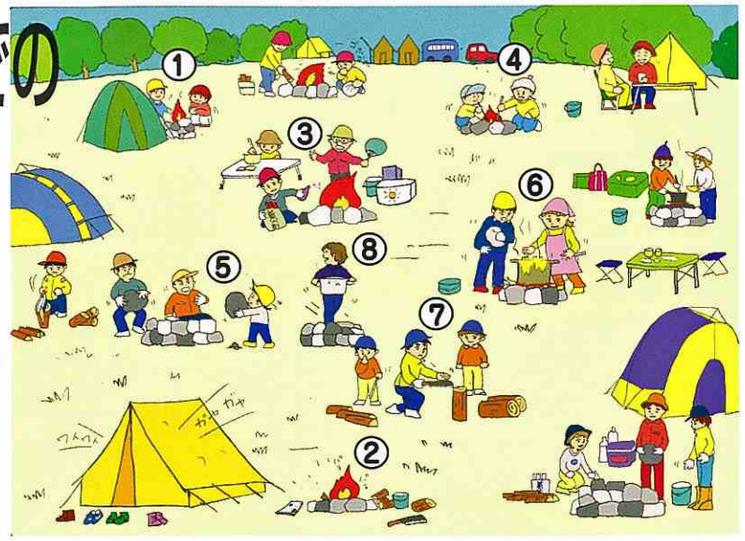
みんなで食事の準備をしています。どんな料理ができるのでしょう。食べるのが楽しみですね。

キャンプでの食事づくりは日常とは違って、かまどを作ったり、薪や木炭で火をおこしたり、料理するにもいろいろな工夫が必要になります。従って、慣れないことをするための危険が生じます。この場面にも、事故につながる危険な行動や状況が見られます。

どこにどのような危険があるか、みんなで考えてみましょう。

4 野外料理での危険（総合編）

4. 野外料理での危険（総合編）



ここが危ない！

① テントのすぐそばにかまどがあり火を燃やしている

張られているテントのすぐそばに、かまどが作られ火が燃やされています。このようにテントのすぐそばにかまどを作り火を燃やすと、火の粉や炎でテントが燃える危険があります。

かまどは、テントだけでなく付近に燃え移りやすいものがないかどうか、確かめて作りましょう。

また、ときには強い風が吹いて、火の粉が飛び散る危険性もあるので、風向きなども十分

＊＊

② かまどの火が無人で燃えている

かまどで火が赤々と燃えていますが、近くに人がいません。野外ではかまどの火の粉や炎が風にあおられて、近くのものに燃え移り火災になる危険があります。

野外で火を燃やすときは、このような火災を防ぐために、必ず“火の番”がいて火を見守ることが大切です。かまどの近くには万一の場合に備えて、水を入れたバケツを置いておくことも必要です。

＊＊

③ 着火剤をつぎ足そうとしている

薪が燃えているのに着火剤をつぎ足そうとしています。メチルアルコールが主成分であるゼリー状の着火剤は、日中の明るいところでは炎が見えにくいという特徴があります。このため「薪が燃えていない」、「薪の燃えが悪い」と思い込み、つい着火剤をつぎ足してしまいがちです。

このように不用意に着火剤をつぎ足すのは危険です。突然炎が噴き上がり、顔や手などに火傷を負う危険があります。火をつけた後の着火剤のつぎ足しは止めましょう。

④ かまどの火を子どもが棒でつついている

日常生活の中では、裸火を直接見る機会はほとんどなくなってきました。

子どもたちは火には特に興味を持ちます。そのうちただ見ているだけでなく、棒で火をつついて遊び始めます。燃えている火をつつくと、火の粉や炎で火傷をしたり、火が飛び散って周囲のものに燃え移ったりする危険があります。

このような危険を防ぐために、子どもの火遊びには十分に注意しましょう。

＊＊

⑤ 子どもが大きな石を運んでいる

食事の準備で子どもが、かまど作りを手伝っています。大きな石を運んでいますが、足の上に石を落としたり、転がっている石や木の根につまづいて転倒すると怪我をしてしまいます。

キャンプでは子どもが手伝いできることがたくさんありますが、怪我をしてしまっては何もなりません。

子どもの手伝いについては、手伝う内容にともなう危険について、事前に注意を与えるとともに、怪我をしないように見守ることも大切です。

⑥ かまどにかけてある熱い鍋を素手で持とうとしている

よくあることですが料理に夢中になり、かまどにかかっている熱くなった鍋を、ついうっかりして素手で持ち、火傷をしてしまうことがあります。

このような火傷を防ぐために、野外料理では火に強い木綿の軍手や革手袋をつけるよう習慣付けましょう。（化繊の軍手は火を扱うときには危険です）

安全管理委員会では“軍手の安全実験”を行い、その結果を「安全なキャンプのためにＰＡＲＴ３」で報告してありますのでご参照ください。

＊＊

⑦ ナタを持つ手に軍手をつけて薪を割っている

薪割りをしていますが、ナタを持つ手に軍手をつけ、薪を素手で持っています。

ナタを持つ手に軍手をつけると、ナタが滑りやすく、手元が狂って薪を持っている方の手を傷つけたり、ナタがすっぽ抜けて周りにいる人に当たる危険があります。ナタで薪を割るときにはナタを持つ手は素手で、薪を持つ手には必ず軍手をつけ、切り傷や打撲の危険から身を守るようにしましょう。

⑧ よそ見をしながら鍋を持って歩いている

鍋を持って、よそ見をしながら歩いています。前方には積み上げた石があります。このままでは石につまずいて転んでしまいます。鍋の中に熱いものが入っていたりすると、大火傷を負ってしまう危険があります。

この他にもキャンプ場内には、石が転がっていたり、木の根が張り出していたりして、障害物がいたるところにあります。

このような場所では、十分に足元に注意を払って歩くようにしましょう。

5 野外料理での危険（燃焼器具編）

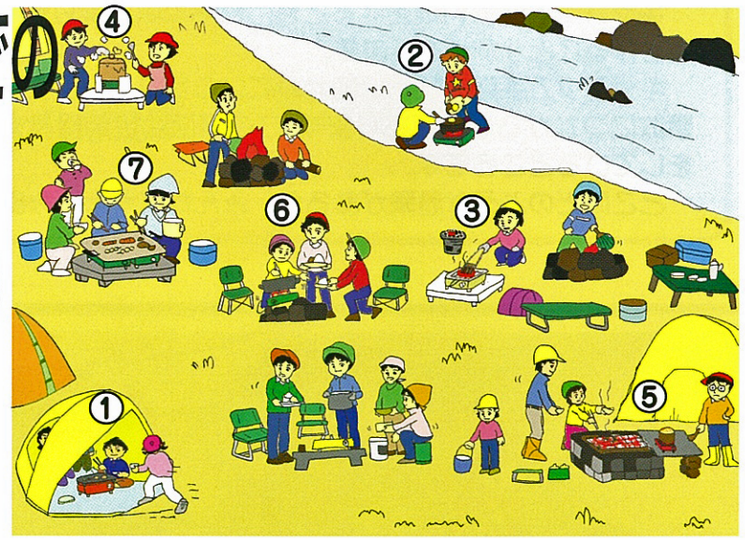
《どこにどのような危険があるか考えてみよう》

キャンプで野外料理をするとき、日常ではあまり使用しない器具を使って料理を作ることが多くあります。

キャンプで手軽に便利に使われている器具でも、使い方を間違えると思わぬ事故につながる危険があります。この場面は燃焼器具を使用して、食事の準備をしているところです。

どこにどのような危険があるか、みんなで考えてみましょう。

5. 野外料理での危険（燃焼器具編）



ここが危ない！

①テントの中でコンロを使用している

テントの中でコンロを使用しています。密閉したテントの中でコンロ類を使用すると、酸欠や一酸化炭素中毒、テント火災などの危険があります。このような危険を避けるために、テントの中ではコンロを使用しないようにしましょう。特に炭火の使用は厳禁です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

②河原にコンロを置いて使用している

コンロを河原に直接置いて使用しています。夏の炎天下の河原や砂浜などは、石や砂が直射日光で焼けて熱くなり、コンロのガスボンベが加熱され爆発する危険があります。

このような危険を避けるために、ガスボンベが直接加熱されるような場所ではコンロを使用しないようにしましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

③コンロで炭火を起こしている

ガスコンロの上で炭の火起こしをしています。コンロの上で炭や練炭などの火起こしをすると、輻射熱でコンロ内のボンベが過熱して爆発する危険があります。

このような危険を避けるために、炭の火起こしにはガスコンロ等を使用しないようにしましょう。

④コンロが囲われている

コンロの上にのせてある鍋が、コンロの上を覆っており、周囲が風よけで囲まれてしまっています。このようにコンロが完全に覆われてしまうと、ガスボンベに熱がこもりボンベが過熱して爆発する危険があります。

このような危険を避けるために、コンロを囲ってしまうような使用は避けましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

⑤火気の近くでコンロを使用している

火が燃えているかまどのすぐそばで、コンロを使用しています。火気からの輻射熱で、コンロ内のガスボンベが過熱して爆発する危険があります。

このような危険を避けるために、かまどに限らず火気のすぐ近くでのガスコンロの使用は避けましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

⑥不安定な場所でコンロを使用している

積み上げた石の上でコンロを使用していますが、コンロが傾いています。このままでは、いつ滑り落ちるかわかりません。コンロが滑り落ちると、やかんや鍋で熱せられていた熱湯や煮物などが飛び散って火傷を負う危険があります。

このような危険を避けるために、コンロは平らで安定した場所で使用しましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

⑦コンロを2台並べて使用している

鉄板焼をしていますが、鉄板の下を見るとコンロを２台並べて使用しています。

コンロをこのように２台以上並べて使用すると、コンロ内に熱がこもりボンベが過熱して爆発する危険があります。

このような危険を避けるために、コンロを並べて使用することは絶対にしないようにしましょう。

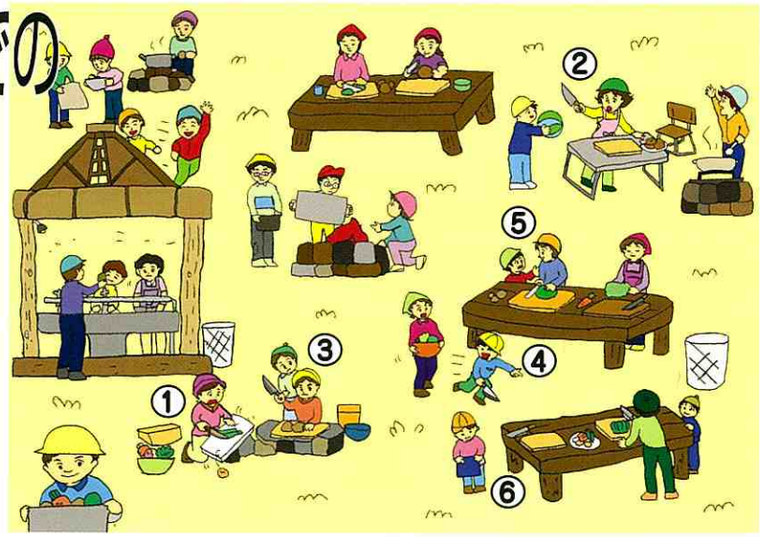
6 野外料理での危険（調理用具編）

どこにどのような危険があるか考えてみよう

野外料理は、キャンプの楽しみの一つでもあり、おいしさも格別です。この場面は、食事の準備をしているところですが、この中にも事故につながる危険な行動をしている人や事故につながる危険な状況があります。
どこにどのような危険があるか、みんなで考えてみましょう。

6. 野外料理での危険（調理用具編）

ここが危ない！



① 不安定な場所にまな板を置いて包丁を使っている

石の上にまな板を置いて包丁で何かを切っていますが、まな板が傾いて不安定な状態になっています。このままでは、まな板がすべり包丁で手を切る危険があります。

まな板は、平らで安定した場所に置いて包丁を使いましょう。

② 包丁の先を子どもに向けている

大人が包丁の先を子どもに向けて、何か話をしています。包丁を人に向けるのは危険とわかっていても、つい忙しいときなどに包丁を持った手で指図したりしてしまうことがあります。包丁がそばの人に当たれば、思わぬ大怪我をしてしまう危険があります。

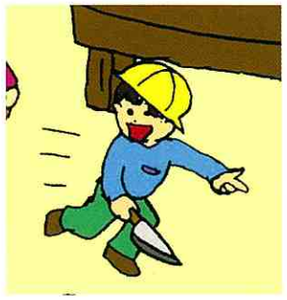
このような危険を避けるために、どんなに忙しく気ぜわしいときでも、ついうっかりして包丁を人に向けてしまうことがないよう細心の注意を払いましょう。

③ 近くに子どもがいる包丁を振り上げている

何か硬いものでも切っているのでしょうか、包丁を振り上げている後ろに、子どもが立っています。子どもですから転んだりつまずいて、まな板の上に手をついたり、覗き込んで包丁による怪我を負う危険があります。

このような危険を避けるために、刃物を使うときには周囲に注意を配り、常に子どもがいないことを確認しながら使用しましょう。また、子どもには、刃物を使用しているときには、近づかないように注意しておく必要があります。

④ 子どもが包丁を持って走っている



包丁を持った子どもが、走っています。包丁を持って走るだけでも危険なのに、よそ見をしています。石などにつまずいて転ぶと、大怪我をする危険があります。

このような危険を避けるために、包丁に限らず刃物を持って走ったり、ふざけたりしないように、事前に注意を与えるとともに、しっかりと見守りましょう。

⑤ よそ見をしながら包丁を使っている

料理の手伝いで、子どもが包丁で何かを切っています。よそ見をするだけでも危険なのに、おしゃべりに夢中になっているように見えます。包丁を使っているときに、よそ見やおしゃべりをすると、どうしても手元がおろそかになり、ケガをする危険があります。

子どもがキャンプに来て、料理などを手伝うことはとても良いことですが、怪我をしてしまっては何もなりません。

このような危険を避けるために、事前に刃物を使用するときの注意を忘れずにしておきましょう。

⑥ 包丁が調理台の端に置かれている

包丁が無雑作に調理台の端に置かれています。すぐ近くにいる子どもが包丁に触れたり、包丁が落下して傷を負ったりする危険があります。

このような危険を避けるために、刃物を置く場所には気を配るとともに、ナタやナイフなどは、使わないときにはケースに収めるようにしましょう。